

第18号

蔵工同窓会報

東京都立蔵前工業高等学校
同窓会
台東区蔵前 1-3-57
TEL(03)3862-4488

ホームページアドレス
<http://kurakou.omiki.com/>

「蔵工同窓会」で検索
Eメールはホームページよりご利用ください



パワーアップハイスクール 蔵工を応援



同窓会会長 尾島正樹

同窓会会員の皆様におかれましては益々のご健勝で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のお引き立てを賜り、大変ありがたく厚く御礼申し上げます。

私は、昭和四十三年設備工業科卒業の尾島正樹でございます。平成二十九年より松野義勝前会長の後を受け、同窓会会長を務めさせていただいております。会員総数一万九千名余りを擁する蔵工同窓会でありますが、今日まで歴代会長をはじめ、多くの役員の皆様、同窓生の皆様のご尽力によって築かれた本会の歴史と、その職責の重さに身の引き締まる思いがいたしております。微力ではございますが、皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、ご承知のとおり令和元年の今年、蔵工は創立九十五周年を迎えます。蔵工は全都の工業高校のパイロット校としての役割を担う学校として、先進的な教育環境の充実に取り組み、成果を上げております。さらに今後とも新時代到来にふさわしい、多くの有能な人材を輩出していただけるパワーアップハイスクールとなることに期待しております。都立工業高等学校のパイロット校として益々のご発展を願っております。

一方で、近年における少子化や高学歴進学の著しい進行などの背景の中、時代の趨勢や社会の動向

などを見据えていく必要があります。学校の各種の取組みと合わせて同窓会でも積極的に機能を発揮していかなければなりません。

教育活動への支援として、生徒の資格取得、各種工業系コンクールやものづくり競技大会などの参加を支援しています。卒業時には、良い成果を残した生徒に対して、同窓会特別賞・皆勤賞・精勤賞で表彰しております。

さらに昨年から、学校の生徒募集・広報活動の一助にもなることから、蔵工記念館で学校と共催で国際交流と記念品展の特別企画展を催しております。海外からの教育関係視察団の記録、十五年以上の実績がある海外修学旅行のパネル展と訪問校と交換された記念品を展示しました。蔵工を訪れる入学希望の中学生、保護者の関心も高く好評を頂いております。

まだまだ、やるべきことは多くあると考えておりますが、同窓会においても最近では同窓会新規会員数の減少傾向にあります。こういった時こそ、若し卒業生の方々にどのような形で参画していただくかを含めた、いろいろな改善を目指して頑張っていく所存でございます。これからの同窓会運営に、皆様方の益々の力強いご指導、ご協力をよろしくお願い致しまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

E 電友会

電友会クラス会支援制度ができました

電友会だより

電友会会長 岡田 憲吾 昭和41年卒

電友会は、学校全体の同窓会とは別に、電力・電気科卒業生のOB会として平成9年発足致しました。結成理念は、「私たちは、伝統ある母校電気科の社会的評価を高めるために、同じ学び舎で同じ学問を修めたもの同志の情報交換を活発化し、親睦と自己研鑽を深めることを目的とす」です。

電友会会員の皆様におつまりたいであり、電友会総会では、隔年開催のため今回は2020年6月から7月ごろ開催予定です。平成30年の電友会総会において、改選された新役員は次のとおりです。

- 会長 岡田憲吾 (昭和41年卒)
- 副会長 島 篤志 (昭和40年卒)
- 同 足立 功 (昭和41年卒)
- 会計 中西国博 (昭和52年卒)
- 同 北島 勉 (昭和52年卒)
- 監査 白井良勝 (昭和32年卒)
- 同 吉野和男 (昭和41年卒)

電友会の運営は、役員を中心に幹事会で行事・内容・母校行事への参加等を検討し、実行しています。

活動報告

- ・幹事会 年9回
- ・電友会総会 母校及び電友会行事の検討
平成30年7月14日 台東区民会館にて開催
- ・総会終了後、精養軒にて懇親会
高齢者の参加種が多い中で平成28年卒の若手参加者も数名有り賑やかでした。
- ・今後も若い方の参加を期待しております。
- ・蔵工祭 平成30年10月27日・28日
電気科展示室来場者の工作物支援、電気科卒業生の無線部OBのメンバーによりアマチュア無線局(JANK)を開局し、通信・説明をおこなった。
- ・ウォーキング
平成30年2月17日 「本郷付近東京大学構内散策」を実施
- ・同窓会役員活動
毎月の学校との連絡活動・定例会議・卒業式・入学式・体育祭・蔵工祭では、蔵工記念館にて入館者への説明を行うなど、同窓会と協力して、母校支援を行っています。

M 機窓会

第7回機窓会総会を開催しました

機窓会だより

機窓会会長 遠藤 静雄 昭和44年卒

第7回機窓会総会及び懇親会が開催されたことを報告いたします。11月10日の土曜日に、母校近くのベルモントホテルにおいて総勢40名での4年ぶりの開催でした。総会では二点の改善を指摘されましたが予定時間に終了、直ちに写真撮影の後、懇親会に入りました。金子祐治機械科長の挨拶の後、未成年者も居るので勿論彼らはノンアルコール飲料でした。和やかに進んだ後は、恒例の賞タイム。今回は宮城県加美町から参加された、49年卒で東北職工会のメンバーでもあり、会を代表して参加の方に遠距離賞が贈られました。東北職工会と宮城県のすばらしさをたっぷり紹介していただきました。そして32年卒の4名の方に長老賞が贈られ、このサブライズにとても喜んでいただきました。今回96才になる昭和16年の卒業生の方も出席の予定で、当時の母校のことなど貴重なお話をいただければと予定していたのですが、急遽欠席となってしまい本当に残念でした。



第7回機窓会総会・懇親会

最後に平成卒の若手7名に近況報告をしてもらい次回の再開を案しみに散会となりました。

A 建友会

第55回技能五輪全国大会建築大工部に出場しました

建友会だより

建友会会長 阿部 芳雄 昭和47年卒

●在校生の活躍を紹介

ものづくりコンテスト木材加工部門関東大会2017(2017年8月19日開催)に中尾駿英君(当時3年生・2018年卒)が参加しました。(2017年11月24日〜27日開催)技能五輪2017(2017年11月24日〜27日開催)

伊藤かんなんさん(当時3年生・2018年卒)が東京都の代表として参加しました。建友会として食事代の支援をしました。2級建築施工管理技術検定学科試験合格者

2016年度・10名(岡崎快哉、小川拓海、河本峰志、坂井青葉、柴崎航平、十文字匠、神保達誠、田沼元、崔高多、広瀬祐太)

2017年度・8名(天滝陸、佐藤志音、椎名匠、長田歩、中野諄也、福野皓介、本田龍聖、柳下開)

2018年度・10名(菅瀬修和、池之野凌、植松玲、佐藤樹、新屋雄河、鈴木拓朗、武田興紀、内藤能直、藤田竜樹、若松慶人)

大工技能検定2級合格者
2016年度・1名(伊藤かんなん)
2017年度・0名
2018年度・1名(西田佑哉)

卒業生表彰(敬称略)
2018年3月2日
最優秀賞・安藤裕也
優秀賞・齋藤和也、松下元樹

努力賞・小島礼央、長田悠也
2019年2月18日
最優秀賞・内藤能直
優秀賞・佐藤 樹、中村真琴
努力賞・石津早也、武舎美幸

同窓会特別賞(2018年伊藤かんなん、2019年長谷川温彦)

●在校生に支援
体育祭応援団旗用アルミ伸縮ポール(2017年)
体育祭応援団旗(2018年)

建友会新入会員
2018年3月卒業生(67期)32名
2019年3月卒業生(68期)34名



在校生に体育祭応援団旗を寄贈しました

●建友会会員の活躍を紹介

業界誌「けんせつ」に建友会メンバーが掲載されました。2018年創刊号に2名が掲載
高宮希羽子(2016年卒)と城戸帆乃香(2017年卒)
2019年2月号には、在校生12年生女子と建築科平野先生と共に1名が掲載
佐藤かん(2017年卒)

それぞれ、建友会としてお祝い会を開催し「建友会会長賞」を贈りました。

●建友会総会
本年は3年に一度の建友会総会(第12回)開催の年です。
開催予定日時:2019年9月28日(土) 17時
開催予定場所:台東区民会館9階特別会議室(台東区花川戸2-6-5)

●役員紹介(敬称略)
2016年の第11回建友会総会において改選された役員です。
会長 阿部芳雄(1972年卒)
副会長 喜多山弘(1959年卒)

同 小島康雄(1966年卒)
同 最守守雄(1960年卒)
同 中山 卓(1988年卒)

同 寺崎俊典(1980年卒)
同 忽滑谷有成(1989年卒)
同 伯田恵介(1991年卒)

同 松尾和之(1991年卒)
同 山本 昇(1990年卒)
同 岡崎一成(1980年卒)

同 上村泰雄(1992年卒)
同 相談役 野田謙二(1955年卒)
同 石川正義(1956年卒)

同 塚本康一(1958年卒)
同 細沼由秋(1963年卒)

●建友会からお願い
各期のクラス幹事・建友会役員を募集しています。幹事・役員に応募されず方は、左記連絡先までお知らせください。

建友会への連絡先
建友会会長 阿部芳雄(1972年卒)
TEL/FAX 0476-97-3186

事務局 岡崎一成(1980年卒)
TEL/FAX 03-5702-7530
又は、蔵工同窓会のホームページ

S 研設会

新研設会会長が決まりました

研設会だより

研設会会長 東 輝夫 昭和45年卒

●新会長決定
前会長退任に伴い、東(あずま)副会長が会長代表代行として会長に決定しておりますが、役員会では本年度以降も会長に選任決定されました。

この度、尾島前会長の同窓会会長就任に伴い研設会会長職を仰せつかりました昭和45年卒業の東輝夫です。私の兄も設備工業科を昭和28年に卒業し、指定水道工務店を営んでおりました。ご承知の通り研設会総会は4年に1回の開催で間延びしてしまつて感否めません。

昭和45年卒の私のクラスは年3回程開催(毎回10名近くが集合します。毎回懐かしい思い出に花が咲き若さを取り戻していますよ)。会員の皆さん、今年あなたが発起人になりクラス会を企画してみませんか? 3人でも集まれば情報も入り、次回は4人5人となるのではないのでしょうか。

本校6階の蔵工記念館にも一度足を運んでみてください。懐かしい写真、アルバム等も常設しています。今年度は活発な研設会を運営していきたいと思ひます。会員皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

●研設会クラス会支援制度
研設会ではクラス会への支援を行っています。ご利用ください。
5名〜9名出席には一万五千元、10名以上の出席には三万円の支援金を出して頂きます。

申請受付はクラス会開催後です。書類審査後に申請者の口座に支援金を振込みます。事前審査を希望するグループは会長あてにメールをください。
(Zuzumai@sak.co.jp)

詳しくは、蔵工同窓会ホームページをご覧ください。
ホームページをご覧ください。

●平成30年研設会総会
懇親会
平成30年7月27日、浅草橋鳥越神社近くの中華楼で開催しました。

戸崎先生・老田先生など多数の出席を賜り、にぎやかで楽しい一時でありました。

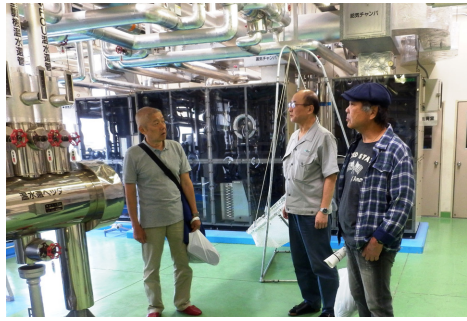


平成30年研設会総会・懇親会

少ない役員で活動しております。同窓会を含め、特定作業(名簿管理、パソコン操作)も更新などでもお手伝い出来る方を募っております。時間を許す範囲で結構ですので、声を掛けた際にはOB会のためにご助力の程をよろしくお願い致します。

会員だより

同窓会総会・懇親会



懐かしい母校蔵工にクラス仲間と集まり見学しようとの話しになり、9名が参加しました。設備工業科の先生の案内で設備実習機械室、蔵工記念館を見学。昔と違った現在の施設を見て充実した環境で勉強できる生徒をうらやましく思いました。



33会 西村 清さん
昭和33年設備工業科卒



同窓会より

蔵工祭には多くの先輩が蔵工記念館に來館していただきました。懐かしい写真や卒業アルバムに思い出の話しが尽きなかったようです。

古い写真、生徒手帳、学生服などを持ってきてくれた先輩もいらっしやいました。またのお出でを待っています。

平成28年11月に恩師戸崎重弘先生88歳米寿を祝う会を開きました。小杉氏の挨拶、網野氏の乾杯の音頭で会が始まりました。先生は米寿には見えず髪も黒々とお元氣な姿を見て我々より元氣でした。まだまだ長生きして白寿まで頑張ってお祝いできるよう祈ります。お祝いの会を卒業生で行ったのは我々7期生だけの事で大変喜んでいました。お祝いの衣装を着ている姿を見て我々もあと12年も生きられるかな、と思えました。近況報告がありました。皆さん病院にお世話になっているようです。



戸崎先生の米寿お祝い会
昭和33年設備工業科卒 西村 清さん

皆さんからのおたよりを待っています



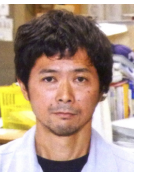
設備工業科 山口和実



建築科 金子淳一



電気科 堀越由高



機械科 高野浩二

蔵工出身の職員です



平成29年度同窓会総会・懇親会は7月15日に台東区民会館で開催しました。総勢75名もの出席があり盛会となりました。



尾島 会長挨拶



東京都立蔵前工業高等学校
同窓会総会

卒業後27年の歳月を経て母校に帰ってきました

平成2年3月に本校機械科を卒業、千葉工業大学第一節機械工学科に入学、平成6年に卒業。同年4月からアラインク製造メーカーに入社し1年で退社。平成7年、清掃工場用に特化した天井クレーン製造メーカーに機械設計担当として入社。8年間従事した後、東京都の教員として採用され、工芸高校マシニングクラブ科に赴任。8年間在籍し、六郷工科高校プロダクト工学科に6年間在籍。平成29年4月から蔵前工業機械科に赴任し、現在は機械科1年1組の担任をしています。

今思うと「卒業後27年の歳月を経てまさか、教員として母校に帰ってくるのは・・・」という感じです。そして民間企業で働くことで強く感じた事は、やはり日本は工業で支えられているという実感でした。工業高校卒業でなければ今の自分有り得なかったと思います。工業高校に感謝し、工業高校に恩返しをしていきたいと思いい教員になりました。初心を忘れることなく生徒に自分自身の経験を選元できればと思っております。

会報発刊に向けて

昭和55年度電気科卒業です。同窓会の皆様方におかれましては、いつも本校を多方面から支えていただきありがとうございます。

さて、私は昭和52年4月に本校電気科に入学いたしました。当時はまだ木造2階建ての校舎と実習棟（現1号館）の他に、別棟の体育館や電気科実習棟がある時代で、入試で初めて正門から本校を見上げたときには、電電公社（当時）の屋上にあるアンテナを見て、「やっぱり蔵前はすごいな」と動揺し、教室に案内されて「やっぱり蔵前は歴史があるな」と現実を見た最後の瞬間です。2年生に進級する全面改装工事が始まり、校庭が1/3程度になり体育祭も中止、実習棟の一部を教室にして授業を受けたことをよく覚えています。

また、電気科では関口先生、山本先生、山崎先生、体育科では菊池先生等々、いわゆる名物先生も健在で、先生方の授業を拝受しました。

卒業後就職に就いて約35年、本校に赴任して10年になりましたが、自分の授業方法は担任の先生に似ているなと思っこともしばしばあり、当時の先生方の影響力と自分の責任を改めて感じています。

本校でもなく創立100周年を迎えます。歴史をつないでいたいただいた皆様のご尽力に感謝するとともに、微力ですが私共も卒業生として協力して参りたいと思っております。これからもよろしくお願いたします。

蔵前工業高等学校に勤務して

昭和56年に蔵前工業高等学校を卒業し、巡回合わせて本校建築科に勤務して早くも10年がたちました。不思議なことに年月だけが過ぎても自分自身は何も変わっていない気がします。進歩や成長がないのか、赴任した当初と変わらないモチベーションが保っているのか？それとも自分が気づかないだけで変わっているのか？それはわかりませんが・・・

我々の仕事は3年間の関わりですが、その期間で成果や結果を見られることはなかなか難しいことです。卒業して数年、あるいは10年以上たつてから自分たちが関わった生徒たちの成長を見て成果のようなものが実感できることが多々あります。そして、そのことが私たちのモチベーションにつながっていきます。

卒業生たちとの関わりは実は私たちにとってとても重要なことで私たちの大きな力の源の一つとなっています。そして同窓会にはいつもその橋渡しをしていただき、たいへん感謝しております。

蔵工の思い出

同窓会の方々は日ごろからご尽力を賜りありがとうございます。

私は、昭和53年度全日製設備工業科卒業、現在母校の蔵前工業高等学校設備工業科に勤務しております。学生で3年、蔵工教員として40年、異動もなく、今も蔵工1筋であります。思い出言っても学生の時と社会人になってからのどちらを書けばよいか迷っています。やはり入塾の時の思い出が強く残っています。とくに、臨海訓練が一番思い浮かびます。泳げない生徒が3か月も経つと千葉県館山の手で遠泳をできるようになるのです。しかしこの訓練は並大抵のことではありませんでした。千駄ヶ谷神宮プールで2時間近く休まずに泳がされ、とても苦しかったことです。しかしこの臨海訓練があったお陰で他の科のクラスの生徒と絆を深め、また館山寮での宿泊などで自主性や協調性を培いました。このおかげで今の教員生活において生徒との関わりにも随分役に立っています。最後になりますが同窓会の更なる発展を期待しております。

メール便り

内田順章さん 昭和35年設備工業科卒

相田育也さん 平成25年設備工業科卒

蔵工、懐かしい響きです。普段の生活の中に、聞かなくなっていました。もう、半世紀以上です・・・さくやふだんのさちのはな、うちふるハンマーとてとく・・・日本の工業立国に貢献したのもですね。パブル経済の陰の力持ちだったのでしょね。僕ら、学校に入ったとき、校の帽章に希望をもっていました。若い人も僕らのそれと同じように、よろしく。

蔵工卒業後はオルガノ株式会社という水处理会社に勤めています。設備工業科で習ったこと少し離れた内容の業務ですが、その他の科よりかなり適用しやすいと感じています。現在は大手半導体製造会社の水処理設備工事に所長をしています。まだまだ未熟ながらこの様な立場になれたことも蔵工で培ってきた技術や知識が少なからずとも生かされていると考えております。設備工業科の先生方に感謝しております。



蔵工に学んだ我が人生哲学
伊庭 孝さん 昭和36年建築科卒

私が蔵工に学んだ時期は公立高校全盛時代で、工業高校では「東の蔵前・西の都島（大阪）」と呼ばれる程のレベルでした。

蔵工卒業後、株 大林組に入社、配属先は名古屋支店設計部でした。（60歳定年退職するまで設計部門に在籍）。3年勤務後に会社の了解を得て、工学院大学（2部）工学部建築学科に入学。

卒業式（1部、2部合同）では総代として答辞を述べました。

在職時代の前半20年間は、国内（北海道から沖縄まで）の設計に従事。後半20年間は国内、海外（米国、タイ、インドネシア、中国、フィリピン、ベトナム）の設計に従事し数多くの建物の設計に従事しました。

大林組在職中の私の代表作の一つが「米国トヨタケンタッキー工場新設プロジェクト」です。文字通りの突貫工事で、建屋の規模「敷地面積約3万3千㎡、延面積約5万3千㎡、工事費約2億円」からして、建設工期設計から建物竣工まで、が5年程かかるの2年半で完成させました。

このプロジェクトで、設計チームのマネージャーとして2年間米国駐在を初めて経験し優良設計として社長賞を受賞しました。

トヨタは米国工場の完成で日本のトヨタから世界のトヨタとして飛躍し現在に至っています。

私は現在、今迄の経験を活かして「設計コンサル崖玉堂」を自営し、もの作りの大切さを実践しています。蔵工同窓会報を通して建設関連業界で活躍している先輩・同輩・後輩の方々が、もの作りの大切さ（技術の伝承）を再認識して頂けたら幸いです。